

2022

活動報告書

GENDER SUPPORT TEAM



ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム

2022年度 活動報告書

ACTIVITY REPORT

2024年1月発行

Contents

筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針	P.02
局長からのメッセージ	P.04
GENDER STAFF	P.05
STUDENTS STAFF	P.06
取組紹介	P.07
1 LGBTQ+に関する授業・セミナー・FD実績	P.07
2 男性育休に関する教職員研修	P.08
3 女子中高生向け理工系進路選択支援プログラム	P.09
4 介護セミナー	P.12
5 階層別研修	P.13
6 OUT IN JAPAN	P.14
7 学群生と院生の交流会	P.15
8 異業種交流会	P.16
9 LGBTQ+への対応	P.19
10 work with Pride ゴールド認定	P.22
11 国際女性デー	P.23
12 外部イベント等への出展	P.26
13 ジェンダー支援チームのその他の支援事業	P.28

筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作り上げるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

01

基本理念

- (1) 性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず、すべての人の人権の尊重、個人の尊厳の確立
- (2) 性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず個人としての個性と能力発揮の機会の確保
- (3) あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定において、性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず対等な参画の推進
- (4) ダイバーシティ社会の実現に向けた国際協力の推進

02

基本方針

1 ダイバーシティ推進活動

すべての構成員が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資するための行動

- (1) 性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず、すべての構成員の教育、研究及び就業に関する機会均等の確保及び差別の解消
- (2) すべての構成員へのダイバーシティ推進に関する教育及び啓発活動並びに意識改革の推進
- (3) 地域社会及び国際社会との連携を通じたダイバーシティ推進活動の戦略的展開

2 障害学生支援

意欲と能力のあるすべての障害のある学生が障害を理由に修学を断念することがないように、修学機会を確保するための行動

- (1) 障害のある学生の修学におけるニーズに応じた適切な合理的配慮の提供
- (2) 障害学生支援に関する組織的な研究、教職員に対する教育及び啓発活動並びに意識改革の推進
- (3) 障害のある学生も含む共生キャンパスの実現
- (4) 障害のある学生の適切なキャリア支援及び就職支援

3 学生等のキャリア支援

すべての学生並びにポスドクのキャリア形成支援及び就職支援のための行動

- (1) 学生及びポスドク人材のキャリア形成支援プログラムの構築及び提供
- (2) 学生自身のキャリア発達の視点に立ったキャリア形成支援及び就職支援の確立
- (3) ダイバーシティの視点に立った多様な就職支援の推進

4 LGBT等支援

「筑波大学におけるLGBT等の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念」を踏まえ、すべての構成員がLGBT等の少数者を差別せず、それら少数者の性自認及び性的指向に対する自己決定を尊重するとともに、修学やサービスの妨げを取り除くための行動

- (1) LGBT等当事者及び関係者への相談体制の確立
- (2) LGBT等当事者の教育、研究及び就業における合理的な配慮の提供
- (3) すべての構成員へのLGBT等に関する教育及び啓発活動並びに意識改革の推進
- (4) LGBT等当事者（学生）への適切なキャリア支援及び就職支援

ダイバーシティ推進を共に

本報告書には、2022（令和4）年度のダイバーシティに関する数々の活動実績を記してあります。

ふりかえれば、本学のダイバーシティ推進への取組は、1997（平成9）年の女性教員有志による「筑波大学女性教官懇話会」から始まりました。その後、2008（平成20）年の「男女共同参画室」の設置や、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の実施（平成25年から継続）、2015（平成27）年の、全国の大学に先駆けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアにかかわるさまざまなミッションを一部署で引き受ける「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」（通称、DACセンター）の新設がありました。また、2016（平成28）年の、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択による、大学（本学）・企業・研究機関の3者が連携し、「3つの土台（環境支援・意識啓発・研究力向上）」と「3つの柱（次世代キャリア支援・上位層育成・研究活動再開支援）」による、女性研究者・技術者の活躍の加速化に努め、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現（TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment）」への取組や、「LGBT等に関する基本理念及び対応ガイドライン」の制定（2017（平成29）年）、「work with Pride 2022」における5回目の「Gold」の受賞など、さまざまな活動において成果を上げてまいりました。

そして、これらの先進的な取組を行ってきたDACセンターは、2023（令和5）年1月、「ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE: Bureau of Human Empowerment）」に改組されました。「エンパワーメント」とは、「対象とする人に、～ができるようにする」という意味で、「本学のすべての構成員が本来持っている能力を発揮して、主体的に行動ができるようにすること」が大切な理念になり、BHEは皆様にとっての「伴走者」という位置付けになります。

BHEは、これまでのDACセンターの「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア」の3部門の業務を継承しつつ、「ダイバーシティ」「アクセシビリティ」「キャリア」の3つの支援チームによって、従来の「マイノリティ支援」を土台に据えつつ、「すべての構成員の主体的行動の支援」を推進してまいります。

今後も、すべての本学構成員の皆様と「共に」、社会課題であるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの実現に努めてまいりたいと思いますので、皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（2024年1月8日 太田 圭）



ヒューマンエンパワーメント推進局
局長

太田 圭

GENDER STAFF

山口 香 ヤマグチ カオリ

体育系 教授/
ヒューマンエンパワーメント推進局
次長（ダイバーシティ）

梅田 恵 ウメダ メグミ

ヒューマンエンパワーメント推進局 教授
業務推進マネージャー

河野 禎之 カワノ ヨシユキ

人間系 助教/
ヒューマンエンパワーメント推進局
業務推進マネージャー

土井 裕人 ドイ ヒロト

人文社会系 助教

佐藤 洋輔 サトウ ヨウスケ

埼玉学園大学 人間学部 特任講師/
カウンセラー

保井 啓志 ヤスイ ヒロシ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム 助教

樋熊 亜衣 ヒグマアイ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム ディレクター

小倉 悠香 オグラユカ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム コーディネーター

前野 志穂 マエノ シホ

ヒューマンエンパワーメント推進局 係長

三浦 博子 ミウラ ヒロコ

ヒューマンエンパワーメント推進局 主任

石井 万里子 イシイ マリコ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム 一般係員

森田 真実 モリタ マナミ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム 事務補佐員

STUDENTS STAFF

ピアスタッフとして、学生がジェンダー支援チーム主催のイベント等で運営に携わってくれています。

ピアスタッフ

令和4年度より、ヒューマンエンパワーメント推進局ジェンダー支援チームでは、学生スタッフ（以下、ピアスタッフ）と一緒に、さまざまな活動を行っています。ピアスタッフは、企画立案からイベントの運営まで学生主体で実施し、ジェンダー支援チームが行うイベントのサポートを行っています。学生視点からDEIを推進するために協力してくれている力強いメンバーです。

ピアスタッフ説明会

2023年2月9日（木）、3月16日（木）にピアスタッフ説明会を実施しました。具体的にどのような取組をしていくのか、どんな学生がいるのかなど、参加した学生からも活動についてさまざまな意見が飛び交いました。また、説明会後はピアスタッフとして11名の学生が登録してくれました。

誰もが「自分らしく生きる」ための支援を一緒に考えていきませんか？

ピ	ア	ス	タ
学	生	募	集

ピアスタッフとして、ぜひあなたのアイデアを活かしてください！

企画例や詳細は裏面をご覧ください！

イベントを企画してみたい

LGBTQ+に関心がある

生き辛さを抱える人を手助けしたい

今の社会に生き辛さを感じる



“ピアスタッフ”って、どんなことができるの？

企画の立案

自分のやってみたかった企画を実現することができる

「こんなことがしてみたいけど、1人で実現するには難しそう…」

そんな想いを、ぜひ一緒に形にしてみませんか？
自分のやってみたかった企画を形にできるチャンス！

企画に携われる

興味のある企画に“単発で”携わることもできる

「企画運営に関わってみたいけど、自分で立案するのは勇気があるな…」

具体的な企画案はないけど、企画成功の手助けをしたいという方は、興味のあるイベントに単発で携わっていただけます。

例えばこんな企画ができるかも

- 男性に向けたメイク講座
- ドラマ撮影等の作品作り
- ユニバーサルファッションショー 等々



募集要項

対象者：筑波大学に所属する学群生・院生の方

※学群や所属、年齢、性別問わず、どなたでもご参加いただけます。

時給一律
920円

参加してみたい・活動についてもっと知りたい

2月中旬頃、説明会を実施予定

ご興味のある方は、右のフォームからぜひご登録ください。

- ① ご登録の方へ2月中旬頃に行う説明会のお知らせを配信
- ② 説明会へのご参加後、スタッフ登録を希望される方は本登録

お申込フォーム



お問合せ先

筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム

029-853-8504
diversity@un.tsukuba.ac.jp

取組紹介

2022-2023

Topics

- 1 LGBTQ+に関する授業・セミナー・FD実績
- 2 男性育休に関する教職員研修
- 3 女子中高生向け理工系進路選択支援プログラム
- 4 介護セミナー
- 5 階層別研修
- 6 OUT IN JAPAN
- 7 学群生と院生の交流会
- 8 異業種交流会
- 9 LGBTQ+への対応
- 10 work with Pride ゴールド認定
- 11 国際女性デー
- 12 外部イベント等への出展
- 13 ジェンダー支援チームのその他の支援事業

1

LGBTQ+に関する授業・セミナー・FD実績

LGBTQ+※1に関するテーマを取り扱う授業として、学群総合科目「ダイバーシティ&インクルージョン入門」（春学期）や学群自由科目「ダイバーシティとジェンダー／セクシュアリティ」（秋季集中）、大学院共通科目「ダイバーシティとSOGI/LGBT+」（秋季集中）を実施しました。

また、令和2年3月に改訂を行った「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」の周知や、LGBTQ+に関する意識啓発のため、オンライン（オンデマンド方式）による全学FD研修会（6月1日～31日、3月13日～31日）を実施しました。特に、3月の研修では、外部の当事者の講師を招いた講演を取り入れ、当事者の思いにふれることで、より身近な存在として考える機会をつくることができました。また、昨年度から引き続き認定NPO法人グッド・エイジング・エールズとの共催で「OUT IN JAPAN @ 筑波大学」を、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じたうえで附属中央図書館にて開催しました。さらに学外での活動として、愛媛大学（7月22日）、法政大学（9月8日）、金沢大学（9月30日）、東京弁護士会（3月10日）にて本学の取組について講演を行い、積極的な情報発信と情報共有に努めました。

※1 LGBTQ+とは、Lesbian（レズビアン）・Gay（ゲイ）・Bisexual（バイセクシュアル）・Transgender（トランスジェンダー）・Questioning（クエスチョニング）/Queer（クィア）及び他のセクシュアリティを含む総称とします。これらのカテゴリーに直接当てはまらない当事者もいますが、筑波大学の基本理念や対応ガイドラインにおいては包摂しています。

2022/6/7（火） 服務監督者向けオンラインセミナー

『多様な人材の活躍へ ～育児期の部下を活かすコミュニケーションと法改正～』

6月7日に、筑波大学の服務監督者の教職員を対象に『多様な人材の活躍～育児期の部下を活かすコミュニケーションと法改正～』を開催し、54名の方にご参加いただきました。このセミナーは、令和4年4月1日より段階的に施行される「育児・介護休業法の法改正」について理解を深めるとともに、男性教職員が育休を取得することで業務や組織に与える好影響を知り、育休取得の促進や職場環境の整備をすることで組織活性化へつなげる機会となりました。

講師の山口理栄氏より法改正の説明、男性育休の目的や現状、課題点、男性の育休取得でどう社会が変わるか等の講義があり、その後育休を取得した本学男性教職員2名の方にご協力いただき、生の声として経験談を話していただきました。そして最後に、「男性の育休取得を促進するには」をテーマにグループディスカッションを行いました。



+ 男性の育児休業がより取りやすくなる 法律改正

2021年6月3日に成立した、改正育児・介護休業法の内容

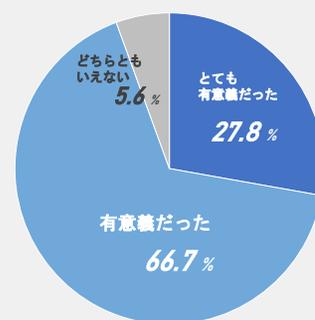
- 育児休業制度周知義務化（2022年4月1日～）
 - ①対象の従業員に対し、企業が個別に育児休業制度を周知し取得を促すよう義務付ける
 - ②有期契約労働者は雇用期間が1年以上なければ育休を取得できない要件の撤廃
- 出生時育児休業制度（2022年秋ごろ予定～）
 - ①新制度：産後8週間以内に2回に分けて計4週間、合わせて最大4回に分けて育児休業が分割取得できるようになる
移行：産の出産後8週間のうち1回、8週間未満に1回育児休業を取得可能。
 - ②勤務先への育児休業申し出を取得2週間前（現行1カ月前）までに短縮
- 育児休業取得状況の公表【1000人超の企業】（2023年4月1日～）
 - ①毎年1回育児休業の取得状況を公表しなければならない

© 2022 YAMAGUCHI PLANNING Co., Ltd.

アンケート結果

- 育休取得者の経験談は大変興味深く、今後の対応に非常に参考になった。
- 育休が終わってからも育児は続くことに当然のことながら気づかされた。
- 育休等を気兼ねなく取得できるようにするためにも、組織としての体制強化、人員確保等に力を入れる必要性を感じた。
- グループディスカッションをとおして、他の管理職が実践している面談時の声掛けの工夫や仕方を知る機会となった。
- 部下への両立環境状況をどこまで把握すべきなのかが明確になった。

講義の満足度



3

女子中高生向け 理工系進路選択支援プログラム

2022/8/10（水） 女子中高生向け 理工系進路選択支援プログラム

リケジョ サイエンスフォーラム 2022

筑波大学・つくば市共催「リケジョサイエンスフォーラム2022」を開催いたしました。女子中学生、高校生の方、その保護者の方を含めて246名の方にご参加いただきました。

2021年に引き続き、完全オンラインによるイベントとなりましたが、企業や研究機関、大学等で活躍されている講師の方を招いてお話をうかがった「ロールモデル紹介」、講師や学生と交流ができる「ラウンドテーブルカフェ」、筑波大学院生による「研究室紹介」を実施し、各プログラムとも盛況を博すことが出来ました。

お答えしきれないくらいたくさんの質問があり、理系に対して参加者のみなさんの興味・関心が高いことがうかがえました。今回のイベントを通して、研究の楽しさや魅力をお伝えするとともに、少しでも疑問や不安が解消される機会となっていたら嬉しい限りです。

各中学校・高等学校へ配布
した参加者募集のチラシ



参加者からの声

- リアルな声を聞くことが出来て、とても参考になりました。素敵な機会をいただきありがとうございました！
- 参加人数が多くて、直接質問に答えていただけなのがとてもよかったです。参考になりました。
- 今回のような機会があったら、また参加したいです。
- 昨年も参加しましたが、今年はなんだかさらに深くお話が伺えたように思います。ありがとうございました！
- オンラインなので、地方からも気軽に参加できました。
- とても為になりましたし、理系に進みたいという気持ちもますます強くなりました。このまま理系に進めるように、日々勉強を頑張ります。
- 女性ならではの大変なことも話にでていて、まさに「リケジョ」ならではの価値のある時間になりました。
- 自分の興味のある分野を深掘りしていく皆さんが素敵だなと感じました。
- 大学生活のイメージが少し持てて、自分の勉強のモチベーションアップにつながりました。またぜひ機会があれば参加したいです。

中村 祥子さん（森林総合研究所）

Q 野外活動は1回
どのくらいの時間行きますか？

A 体力勝負のため、自分の体力のできる範囲で計画しています。現在は、週3～4日午前中のみ行っており、環境や天候によっても異なります。フィールドが遠い場合は、数週間に1回程度の出張や、ターゲットの花が咲く時期の短期集中的な出張を組み合わせています。

Q 自分の好きな研究を
仕事にするのは難しいでしょうか？

A 好きな研究の仕事に就くのは運もあるかもしれません。はじめはそんなに興味のない対象の研究で就職したとしても、徐々に自分のやりたいことを仕事に引き寄せていくことはできると思います。

高木 真莉奈さん（アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社）

Q 会社のどんなところに魅力を感じましたか？

A 一つの研究所にグループの研究開発部門が一同に集まっている点、風通しがいい点が魅力と感じていました。実際に入社してみて、働く人や環境を大切にしてくれる会社だと感じています。

Q 志望した会社に入社できた背景として、
ご自身の武器は何だったと思いますか？

A まず、その会社へ入社したいという想いがとても大きかったことです。他には学生時代、ひとつひとつ意志をもって行動をしていたことなどもあると思います。（例えば英語を身に付けたいから、留学生の多い研究室に所属しようなど）

佐野 幸恵さん（筑波大学システム情報系）

Q SNSの研究をすることを決めた
決定的な理由は何ですか？

A 分岐点がいくつかあり、まずは社会現象にも興味が湧いてきました。そして調べていくうちに、楽しそうに研究している研究者の姿や、ネットワークとして人のつながりが可視化されていく面白さに惹かれ没頭していききました。

Q 理系に進むにあたって、高校生のうちに
やっておいた方が良いことは何でしょうか？

A 理系・文系を考えすぎなくてもいいと思います。受験ももちろん高校生の醍醐味ですが、ぜひ高校生らしい生活も満喫してほしいです。

笠原 留奈さん

（理工情報生命学術院 数理工物質科学研究群・化学学位プログラム）

Q 作った化合物の中で
一番興味深かったものはどんなものですか？

A 自分の手で初めて合成できた化合物です。既に知られている化合物より、自分で作り出すもののほうが興味深く、愛着がわきます。化合物を大事に扱っています。

渡邊 奈穂美さん

（理工情報生命学術院 生命地球科学研究群・生命農学学位プログラム）

Q 研究は一人で行うのでしょうか？
またどのような企業に就職を考えていますか？

A 実験によって変わりますが、一度に大量のデータが欲しい場合などは2-3人で行います。
業界を絞った就活はしていませんが、大学院での研究スキルを活かすことができる製薬企業などを考えています。

深澤 春香さん

（理工情報生命学術院 生命地球科学研究群・地球科学学位プログラム）

Q 古生物に進んだ具体的な
きっかけを教えてください

A 古生物をもっと知りたい！という純粋な気持ちと、自分が面白そうだと思う研究ができそうだったことが大きいです。また研究室という観点では、指導教員と研究の相談をしても親身になってくれる先生で安心して研究できると感じたからです。

市川 真衣さん

（理工情報生命学術院 数理工物質科学研究群・応用理工学学位プログラム）

Q 大学に入って一番驚いたこと、
変化したことは何ですか？

A 自由であること。どのサークルに入るか、アルバイトはどうするか等の選択はもちろん、どの授業を受けるかも人によって違うため、自分の興味や都合に合わせて自由に履修やスケジュールを考えることができます。その為自分で計画を立ててやるべきことを確認しながら作業する力が身についたと思います。

イベント参加者の統計

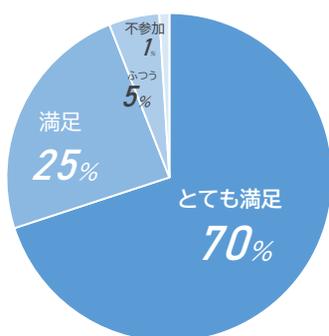
参加者のみなさんからの声

イベント開催後、参加者のみなさんにアンケートにご回答いただきました。その中の回答を一部ご紹介します。

イベント参加者数

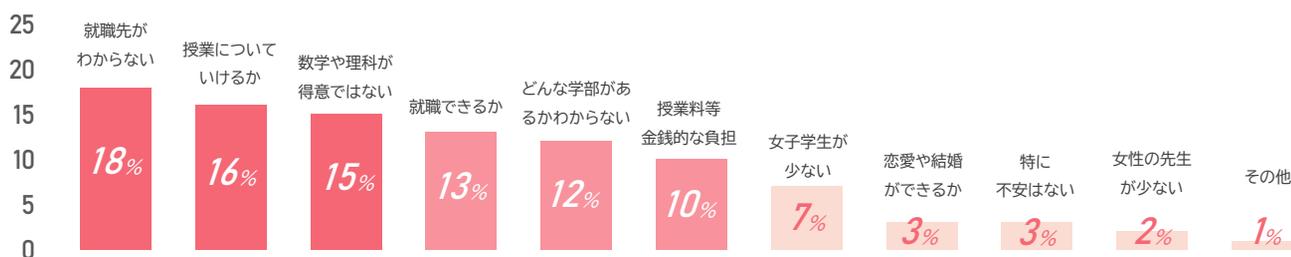


各コーナーの満足度

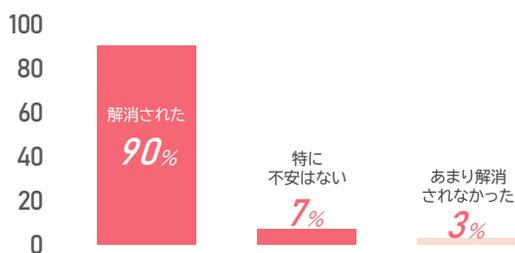


- 大学で身に付けた行動力などが社会人になって生きるということが印象に残った。
- 新しいことに挑戦することの素晴らしさについて学ぶことができた。
- 自分が興味のある道に進むことが一番後悔しないし学びも充実すると感じ、理系に進みたい気持ちが強くなった。

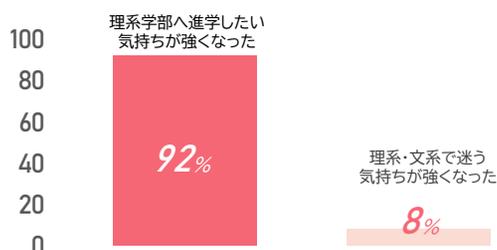
理系進学への不安



イベント参加後、不安が解消されたか



イベント参加後 理系進学への気持ちに変化はあったか



理系学部への進学への気持ちが強くなった

- 今回のお話で自分のなりたいものを再確認でき、理系に行きたいと思ったから。
- 理系の中にもさまざまな分野があり、選択肢がたくさんあることを知れたから。
- 今日お話しして下さった方々が、本当に楽しそうで、何より「なぜ」を追求できることに魅力を感じたから。

理系・文系で迷う気持ちが強くなった

- 理系のことが知れたので文系のことも知りたいなど思ったから。
- 理科は好きだが、数学が苦手だから。

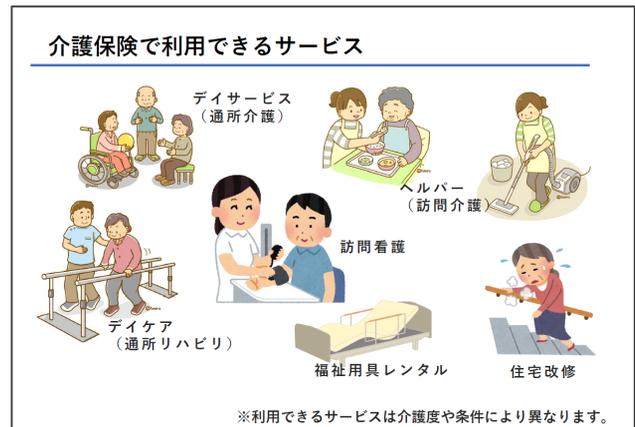
2022/9/9（金） 介護セミナー

つくば市出前講座

『どうやって支える？高齢者の生活と介護』

9月9日（金）に、つくば市役所が実施する「つくば市出前講座 どうやって支える？高齢者の生活と介護」を筑波大学教職員向けにオンラインにて実施いたしました。124名の方にご出席いただきました。

「介護」と一言で言っても、とても幅広く初めて聞く言葉が多くあり、学びの多い時間でした。また、つくば市をはじめとした自治体では、たくさんの制度等に関する解説ツールや冊子が用意されており、支援・相談しやすい環境が準備されていることを知ることが出来ました。家族のことを外に相談するというのはなかなか勇気のいることではありますが、相談してよいのだと、今後介護する立場になったとしても安心する良い機会となりました。



参加者からの声

- 成年後見制度や地域包括支援センターなど、普段聞くことのなかったことについて今回の講演を機に知ることができました。
- 介護保険の対象の適否についても、詳しく知ることができて勉強になりました。
- 近い将来必要となる情報について漠然とした知識しかなかったので、つくば市の現状について知ることができ、大変有用でした。
- 突然介護するときが来るということでしたが、突然来て、その後行政の助けを借りて、どれくらいの期間で落ち着くのか、また、介護度が決まってからしかいろいろと決められなさそうでしたが、介護度が決まるまでの期間、など、時間的な見通しをもう少し知りたかったな、と思います。

5

階層別研修

2022/9/12（月） 教職員対象 階層別研修

令和4年度 筑波大学 階層別研修 『ダイバーシティ』

筑波大学では主任級・係長級・主幹級の教職員を対象とした階層別研修にて、「ダイバーシティ」に関する講義を設けています。

令和4年度 階層別研修
「ダイバーシティ」
2022年9月12日(月)
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当 樋熊

個人の属性や背景に関わらず、活躍できる社会・組織を目指す
ダイバーシティ&インクルージョン(包括)



色々な人がいる。 だけではなく、 差異を認め活かす社会・組織へ。

アンコンシャスバイアス

アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)
:自分自身が気づいていないものの見方や捉え方のゆがみ・偏り
→ 程度の差はあれ誰もが持っていて、完全になくすことはできない。

【例】

- ・ 女性は子育てがあって仕事との両立大変だ
- ・ これは力仕事だから男性にお願いしよう
- ・ 年配の人だからPCは使えないだろう
- ・ LGBTQの人と自分が今後関わることはない
- ・ 障害がある人には簡単な仕事しか任せてはいけない
- ・ 男性なのに育休を取っても大丈夫かな？
- ・ 最近の若い人達はやる気がない

特定の属性に対する
先入観、固定観念、
無関心や決めつけ
etc.

マイクロアグレッション

マイクロアグレッション
:何気ない日常のなかに現れる偏見や差別に基づく言動によって相手を傷つけること → ハラスメントに発展する場合も

【例】

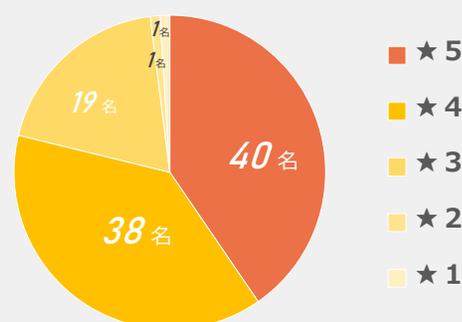
- ・ 「Aさんって〇〇国籍の人だから気が強いんだよね」
- ・ 「あの年で独身って何でだろう」
- ・ 「子どもを預けてまで働かないといけいなんて大変だね」
- ・ 「(LGBTQの人に対して)けっこう普通の人なんだ」
- ・ 「支援が必要な人には全然見えないね」

傷ついても「差別だ」と言いにくい場合が多い。
自身が気を付ける+見つけたら注意する(声をかける)ことも大切です。

アンケート結果

- 教育を受ける機会があまりなかったので大変参考になった。
- 個人の状況がライフイベントによって変化し、それによって社会の居づらさを感じていたが、ダイバーシティの説明や意識の置き方を聞き、励まされました。
- 主任として、働きやすい職場環境を作るための心得になりました。

講義の満足度





2023/1/10（水）～ 1/24（火） 筑波大学図書館での常設展示

OUT IN JAPAN @筑波大学

2023年1月10日～24日までの2週間、筑波大学中央図書館にて「OUT IN JAPAN@筑波大学」を開催しました。筑波大学では5回目の開催となります。学生たちが選んだ28枚の写真を展示しましたが、どの方も生き生きとした表情、ありのまま生きることの素晴らしさが分かるメッセージでした。

展示会場には学生から教職員までたくさんの方にお越しいただきました。さまざまなセクシュアリティの方々の思いが綴られている記事を真剣な眼で見つめる学生が、非常に印象的でした。



イベントの様子（上写真）と、告知用のチラシ（右画像）。会場には、当事者のフォトとメッセージを掲示。

Diversity Awareness Weeks

OUT IN JAPAN @筑波大学

2023年1月10日(火)～1月24日(火)
筑波大学中央図書館 2F 入口奥 常設展示

- ・ 認定NPO法人グッド・エイジング・ユールズと共催
- ・ プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、28枚の当事者の写真とメッセージを展示
- ・ 筑波大学では5回目の開催です
- ・ ぜひ一度、多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に出会ってください

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504 FAX: 029-853-8505 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: <http://diversity.tsukuba.ac.jp> または「筑波大学 ダイバーシティ」で検索



主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・ユールズ



7

学群生と院生の交流会

2023/1/18（水）学群生と院生の交流会～リケジョのゆるカフェ

リケジョのゆるカフェ

進路に悩む学群生が、修士・博士学生との交流を通じて院進学も含めた今後の自身のキャリアを考えていくきっかけとして、「リケジョのゆるカフェ」を実施しました。当日は3名の院生と7名の学群生が参加しました。イベントは院生の自己紹介からはじまり、その後は各院生のグループに分かれ交流を行いました。交流会の中では、研究室生活の様子や、院進学後の就職先についてなどの話題が出ました。オンラインでのイベント実施が多い中で久しぶりの対面実施だったこともあり、終始会話が途切れず学生同士の交流の場としてもイベントの意義があったと感じています。

第1弾 - 学群生と院生の交流会 -
リケジョのゆるカフェ

女子学群生と院生の交流会を開催します！
大学院進学や研究生活への悩みや不安など、
どんなことでも院生に聞いてみましょう。
ぜひお気軽にご参加ください。

参加無料

2023.01.18 WED

当日参加予定の院生メンバー

<p>所属 理工学群生命学専攻 農産学専攻 女子学群プログラム</p> <p>学号 博士課程2年</p> <p>専門 有機合成化学</p> <p>研究 新しい化合物の開発</p>	<p>所属 理工学群生命学専攻 生命化学専攻 女子学群プログラム</p> <p>学号 博士課程2年</p> <p>専門 遺伝学</p> <p>研究 遺伝情報解析技術を使った 農業マツスの解析</p>
<p>所属 理工学群生命学専攻 農産学専攻 女子学群プログラム</p> <p>学号 博士課程2年</p> <p>専門 有機合成</p> <p>研究 有機合成化学の発展 及び応用</p>	<p>Coming Soon ...</p>

場所 | 3B棟213 (プレゼンテーションルーム)
時間 | 18:15 - 19:15
対象 | 筑波大学所属の女子学群生 (10名程度)

参加費無料

お申し込みは
お申し込みは
お申し込みは

申込締切
1.16 WED

リケジョのゆるカフェ
スタッフ募集

●実施日程●
2023年1月18日(水)
18:15~19:15

学群生からの悩みや質問にお答えいただく院生スタッフを募集！

～学群生と院生の交流会～ 第1弾「リケジョのゆるカフェ」で
学群生からの悩みや質問に答えてくださる院生スタッフを募集しております。

内容

- ① 自己紹介スライドの作成 (1~2枚)
- ② 事前打合せ
- ③ 交流会参加 (1時間)
- ④ イベント後の報告メモ作成

交流会は対面、
他の業務は
オンラインです。

時給 920円 (※最大4時間程度)

対象 筑波大学の大学院に在籍している女子学生で、
自然科学系(理学・工学・農学・薬学)分野に所属する学生

申込 <https://forms.gle/sWdfWzJFcP7zpvLr8>
URL、もしくはQRコードよりお申込みください。

1/5 (水) 締切

2名
募集

筑波大学
ヒューマンエンバロメント事務局 ジェンダー支援チーム
TEL:029-853-8504
Mail:diversity@un.tsukuba.ac.jp

告知チラシ

- 参加者募集用
- スタッフ募集用

参加者からの声

- 気軽に色々なことが聞けて参考になりました、楽しかったです！
- 知らない制度や支援の調べ方など、具体的にイメージしやすいお話をたくさんお聞きできて大変有意義でした。
- とても有意義な時間が過ごせました。楽しい会を企画していただき、ありがとうございました。
- 参加して本当に良かったです。特に金銭面での希望が持てました！



2023/2/3（金）異業種交流会

TIDE Women's Award 2022

本顕彰は、多領域で活躍する優秀な女性研究者・技術者を讃えるため、2018年度に「TIDE Women's Award」として創設しました。

研究者のみならず教育や地域貢献、機関内外でさまざまな活動に尽力されている女性研究者・技術者を顕彰することにより、当該の優秀な研究者・技術者自身及びこれに続く多くの研究者・技術者の励みにつなげること、また、ステップアップにつながるよう教育・研究・社会貢献等への意欲を高め、学術研究や科学技術の将来を担う優れた人材の育成に資することを目的としています。

2023年2月3日に行われたオンライン形式の異業種交流会にて、「私のキャリアパス・キャリアプラン」というテーマで5分間のプレゼンテーションを行っていただきました。異業種交流会には30名の方にご参加いただき、6名の方にご発表いただきました。審査員4名による協議の結果、日本アイ・ビー・エム株式会社の戸倉彩さん、筑波大学の宮大子さんのお二人が受賞されました。

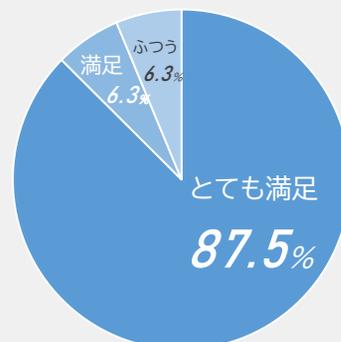
戸倉さんには、「客観的に自分のキャリアを整理していてよかった。大変なことは発表からは見えてこなかったけど実際にはあると思う。その中でタフに力強く生きていることが伝わってきた。これからも夢に向かって邁進してほしい」との総評が送られました。

また宮大子さんには「発表の中では「なんとなく」と沢山言っていたが、そのたびに人生を考え、決断していたと思う。とてもよいワードが多かった。本が書けるくらい素敵だった。キャリアに迷っている方を勇気づける内容だった」との総評が送られました。

アンケート結果

- 女性リーダーの皆さんの思いのポイントに共通するものが多くみられ、大変興味深かったです。
- 新しいことに挑戦することの素晴らしさについて学ぶことができた。
- 他人に頼ること、オファーは断らない等、現時点で実践できていないことが多く、今後のキャリア形成やライフイベントに備え、大変参考になるお話を伺えました。ありがとうございました。
- 皆様がお忙しい中時間を上手に使い、ご活躍されていてとても感動いたしました。
- 発表者の皆様の熱い思いが一番印象的でした。皆様の発表は多くの研究者・技術者の皆様への勇気につながると思います。今後ともぜひ発信いただけますと幸いです。

イベントの満足度



TIDE受賞者のみなさまのご紹介

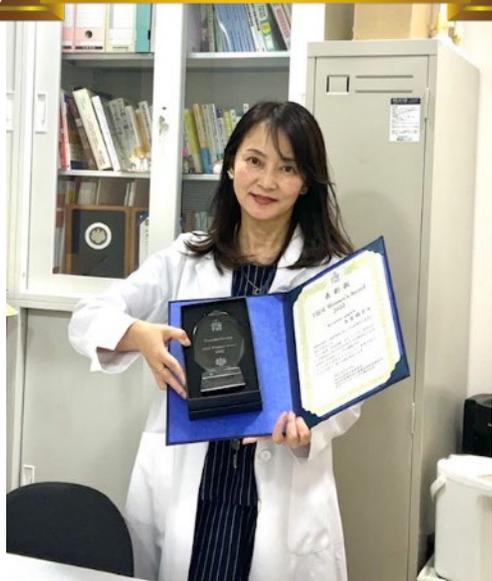
日本アイ・ピー・エム株式会社

戸倉 彩 氏



筑波大学

大宮 朋子 氏



異業種交流会チラシ

TIDE

TIDE Women's Award

女性研究者・技術者
異業種交流会 2022

前線で活躍する女性研究者・技術者の方々の取り組みを共有する交流会です。
テーマ「私のキャリアパス・キャリアプラン」に沿ったプレゼンテーションや、参加者同士の交流会、
最後にはプレゼンテーション発表者の中から「TIDE Women's Award」の受賞者を決定します。

2023年 **2月3日(金)**
14:00~16:00 (開場:13:50)

場所 オンライン(Zoom)
対象 どなたでも参加可能

参加費 **無料**

14:00~14:05 開会の挨拶
14:05~14:55 参加者による発表+交流会①
15:00~15:45 参加者による発表+交流会②
15:45~15:55 TIDE Women's Award 表彰式
15:55~16:00 閉会の挨拶

テーマ 私のキャリアパス・キャリアプラン

参加申込 **1/31(火)**

QRコード・URLよりお気軽にお申込みください

主催 筑波大学 日本アイ・ピー・エム株式会社 産業技術総合研究所
お問い合わせ 筑波大学 ダイバーシティ・イノベーション・センター TEL: 029-853-8304 E-mail: diversity@un.bu.tsukuba.ac.jp

TIDE TIDE Women's Award 2022 は、
1. テーマ発表 2. 交流会 3. 授賞式 の3つの構成で行います。

テーマ発表 立候補者によるテーマについての発表

立候補者によるテーマについての発表後は、質疑応答や審査員、参加者とのディスカッションなどを行う予定です。
【テーマ】私のキャリアパス・キャリアプラン

★ テーマについて発信・共有できる
「自身のキャリアパスを紹介」「キャリアとWell-being」「これからの女性リーダーシップ」など、様々な角度からのご発表をお待ちしています！

発表者の方を募集しています 発表者募集

「話題提供者」として、テーマについてのプレゼン発表を行ってくださる女性研究者・技術者の方を募集しております。

対象者 筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所、または、「つくば女性研究者支援協議会」「ダイバーシティ・サポーター・オフィス」参加機関に所属する女性研究者・技術者の方

発表希望される方は 募集の要項をご覧ください

エントリー期間 2022/12/21 17:00まで

交流会 ブレイクアウトルームを使った交流会

発表者を含む、全参加者で行う交流会です。様々な分野でご活躍されている方々とお話することができます。

★ 様々な分野の方と交流できる
グループに分かれて交流会を行います。
発表者を含む研究者・技術者、学生や職員などなど、組織や所属領域の枠を超えて、普段交流することがない方々とぜひ色々なお話をしてみてください！

授賞式 プレゼン発表者の中から受賞者を決定！

発表をされた方の中から「TIDE Women's Award」の受賞者を決定しています。受賞者には表彰状・贈賞が送られます。
★ 審査員と参加者からのフィードバック
4名の審査員が協議のうえ、受賞者を決定します。発表者には審査員からフィードバックも行います。
「審査員にこんなことを聞いてほしい！」などの質問も大歓迎です！

審査員紹介

佐藤 緑 氏 (副研) 産業技術総合研究所 総研研究員 / (副研) 筑波大学大学院 連携大学院教授
1994年 (昭) 徳島県生まれ。徳島県立大学 工学部工業技術系研究科入籍。2003年 所内異動を経て、筑波大学 工学部情報科学系「データサイエンス」に所属。2016年 所内異動により、筑波大学大学院「データサイエンス」に所属。2020年 所内異動により、筑波大学大学院「データサイエンス」に所属。2022年 所内異動により、筑波大学大学院「データサイエンス」に所属。現在は、データサイエンス分野の研究者として活躍中。

山口 香 氏 筑波大学 体育系教授 / ダイバーシティ・イノベーション・センター 副センター長
筑波大学 体育系教授 / ダイバーシティ・イノベーション・センター 副センター長

山岸 裕美 氏 アサヒグループ化成工業株式会社 執行役員 / DEI (Diversity, Equity and Inclusion) 推進員
1985年、アサヒグループ化成工業に入社。研究所にてチーム開発の経験がある。チーム開発の経験から、2016年、博士(工学)取得。2017年、筑波大学大学院 工学部 工学系 助教に就任。2018年、アサヒグループ化成工業 執行役員に就任。2020年、アサヒグループ化成工業 執行役員に就任。現在は、アサヒグループ化成工業の執行役員として活躍中。

TIDE とは

筑波大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、産業技術総合研究所による平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現を目指して」の略称です。

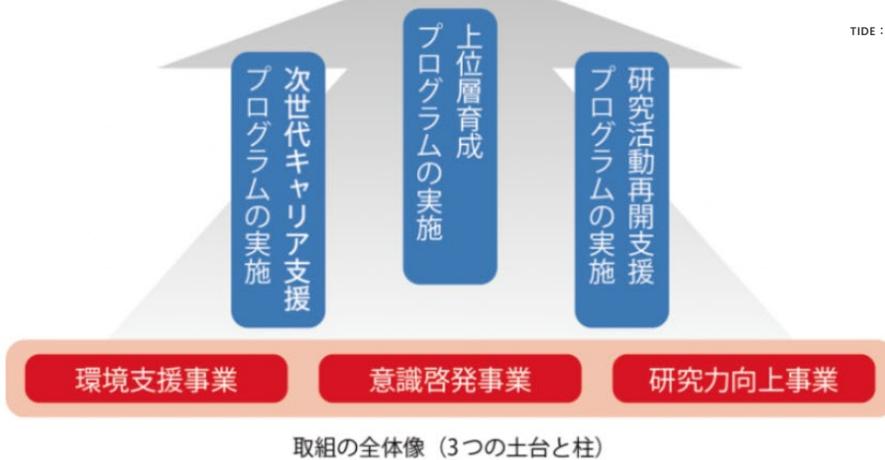
3機関が連携して女性研究者・技術者の採用や活躍を加速するための「3つの土台」と「3つの柱」となる取組を実施しています。産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引することで、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現」を目指します。

イノベーションの創出に向けた多世代に渡る
女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現

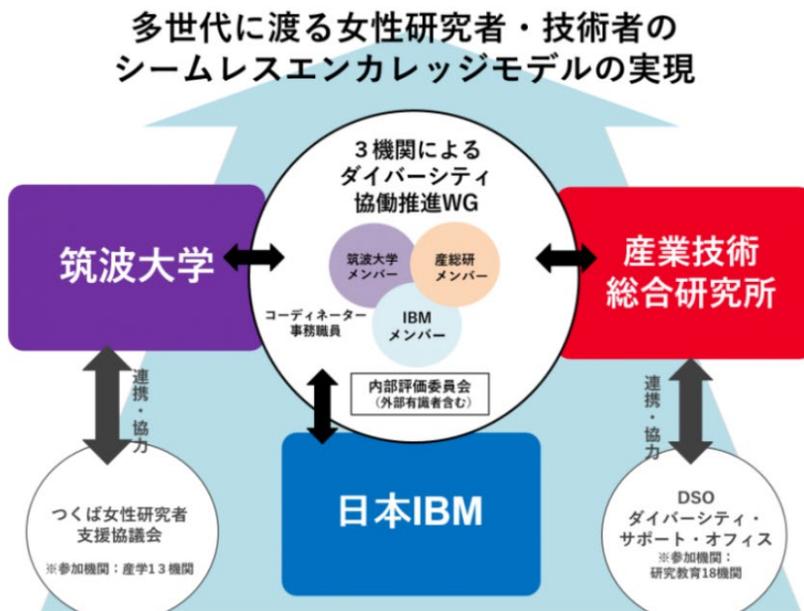


TIDE : Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment

代表機関：国立大学法人筑波大学
共同実施機関：日本アイ・ビー・エム株式会社
国立研究開発法人産業技術総合研究所



TIDEの実施体制



9

LGBTQ+への対応

大学としての支援の取組

筑波大学では、平成27年度よりLGBTQ+の性的マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学としての支援の取組を始めました。具体的には以下のような取組を行っています。

窓口設置

相談窓口の設置

啓発

授業やセミナー、
学内FD等での啓発

ガイドライン

基本理念と対応ガイ
ドラインの作成

グッズ作成

アライグッズの作成

とくにトランスジェンダーや性別に違和をもつ学生には、これまでも次のような点について対応しています。

- 氏名の取扱い
- 使用トイレ
- 教育実習やインターンシップ
- 名簿等における性別の取扱い
- 健康診断
- キャリア相談、就職相談 など

また、教職員への対応として、令和2年4月よりパートナーがいる教職員（地方自治体等によるパートナーとして証明する書類が発行された教職員）の福利厚生として、休暇、休業、諸手当及び旅費の支払い等の対応を行っています。

詳細については、令和2年3月に改訂した『LGBTQ+に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン』及びホームページよりご確認ください。



LGBTQ+の対応ガイドライン



筑波大学
University of Tsukuba

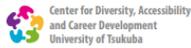


LGBTQ+

等*に関する 筑波大学の基本理念と 対応ガイドライン



本基本理念・ガイドラインは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示」(CC BY 4.0)により利用できます。



国立大学法人 筑波大学

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (ダイバーシティ)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 スチューデントプラザ2階 Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp https://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成29年3月初版
平成30年3月改訂
令和2年3月改訂
令和3年3月改訂

Printed by ISEBU Co., Ltd.

*LGBT等とは、Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む総称とします。これらカテゴリーに直接当てはまらない当事者もいますが、本基本理念とガイドラインにおいては含んでいます。

CONTENTS

04 I 筑波大学におけるLGBT等の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念
Basic principles on prohibition and resolution of discrimination based on sexual orientation and gender identity of LGBTQ+ at University of Tsukuba

06 II LGBT等に関する概要と本学での支援体制

07 III 現状での具体的対応と方針

07 凡例

07 1 相談について

07 ① 相談窓口

08 ② 相談の流れ

08 ③ 学生相談及び保健管理センター (精神科) 等との連携

09 2 氏名・性別の情報とその管理について

09 ① 氏名の変更

09 ② 性別の変更

10 ③ 性別情報の取り扱い

11 ④ 大学の発行する証明書の性別記載

11 ⑤ 大学に提出する諸書類における性別情報の記入

12 3 授業について

12 ① 体育実技の履修、更衣室、用具の配慮

12 ② 学外実習 (教育実習等) の履修

12 ③ 授業におけるグループ分け

12 ④ 授業等における呼称

13 4 学生生活について

13 ① 定期健康診断

13 ② 学生宿舎

13 ③ 多目的トイレ

13 ④ 入学式・卒業式の服装と身なり

14 5 就職活動・キャリア支援について

14 ① 就職活動・インターンシップへの支援体制

14 ② LGBT等当事者にとっての就職活動

14 ③ 本学におけるLGBT等当事者へのキャリア支援

15 6 周囲の対応、特にカミングアウトについて

15 ① カミングアウトとは

15 ② 自己決定と情報のコントロール

15 ③ カミングアウトとアウトティング

16 ④ カミングアウトが必要なときには

16 ⑤ カミングアウトされたときには

16 ⑥ 周囲の対応について

17 7 教職員への対応について

17 ① パートナーがいる教職員の福利厚生について

18 ② 申請手続きについて

19 IV 対応項目一覧

22 V おわりに

23 付録 ツールボックス

23 (1) 相談の際に

23 (2) 自分を見つめてみる

24 (3) 卒業・修了後の証明書発行における氏名の変更について

24 (4) 学外に提出する書類の性別記載について

24 (5) マイナンバーカードについて

25 (6) 体育の授業における男女別要素について

25 (7) 多目的トイレについて

25 (8) 就職活動の前に

26 (9) 就職活動について：LGBTフレンドリー企業等の指標

26 (10) 自分を偽るといつらさ

27 (11) カミングアウトしない生き方〜ゼロセット〜

27 (12) カミングアウトを強要しないで

28 (13) カミングアウトの前に

28 (14) カミングアウトされたときに

29 (15) メディアや作品により作られるステレオタイプ

29 (16) 当事者を支援したいという方へ

30 巻末資料 (相談窓口一覧・LGBT等の相談窓口ポスター)

別冊 ワークシート (CARIO-NEXT Lワークシート群)

※印刷版は10棟学生プラザ2階のキャビネットに配布しています。電子ファイルは、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (ダイバーシティ) のウェブサイトにて公開しています。 (https://diversity.tsukuba.ac.jp/)

CARIO-NEXT 活用ガイド

つくば Career Portfolio
CARIO-NEXT Lワークシート

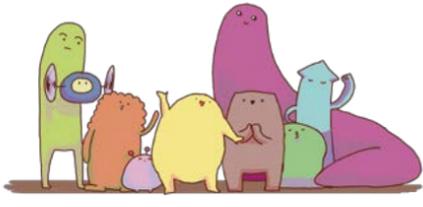
「あなただけの、あなたの強さ。」

CARIO-NEXT Lワークシートとは？

筑波大学はあらゆる面で「開かれた大学」という理念のもと、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究を目指しています。本来違いを持つ学生及び教職員がすべて尊重されるよう、本学では様々な取り組みを進めてきました。その中で2017年3月に策定されたのが、「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」です。

この大学に入学したあなたは、他の誰でもない「あなた」です。どんな人も他の人との「違い」を持っていますが、それは力になることも時にハードルになることもあるでしょう。そこで、もし困難に直面していたら助けとなり、あなたならではの能力が存分に発揮されるよう、**CARIO**に新しく「**CARIO-NEXT**」を設けました。その第1弾が、ガイドラインに対応しLGBT等当事者を主な対象とした「Lワークシート」です。

これは、使う人をLGBT等に限定したワークシートではありません。大きな「違い」を持った人に向けたツールだからこそ、そうでない人にも大きな役割を果たしてくれるはずです。



①

Career Portfolio Worksheet L-11

困っていること整理シート 記入日 年 月 日

このシートは上から順番に書き、必要に応じて複数作成します。チェックは複数可で、必要な事項は記入しません。

(1) この困りごとはどれに該当する？ (複数チェック)	(a)	<input type="checkbox"/> 性的指向 (どうい性愛するか) <input type="checkbox"/> 性自認 (自分はどのような性か) <input type="checkbox"/> 社会的な性の表現 (服装など) <input type="checkbox"/> 恋愛指向 (どうい性心ときめくか)
	(b)	<input type="checkbox"/> 身体的要因 <input type="checkbox"/> 性格的要因 <input type="checkbox"/> 精神的要因 (メンタルなど)
(2) 困っていることの内容は？ (キーワードで可)	(c)	<input type="checkbox"/> 自分自身に対して <input type="checkbox"/> 恋が相手との関係で <input type="checkbox"/> 家庭や社会との関係で <input type="checkbox"/> 自分の気持ちを伝えたいのにうまく伝えられていない <input type="checkbox"/> 自分がわからない/整理できない <input type="checkbox"/> 遠慮がない行動をしよう <input type="checkbox"/> 行動自体が取れない <input type="checkbox"/> 自分がどうすればよいかわからない
	(d)	<input type="checkbox"/> 相手から意図的に困ったことをされる <input type="checkbox"/> 相手は意図していないように私には困ることをされる <input type="checkbox"/> 相手は善意のつもりで私には困ることをされる <input type="checkbox"/> 相手の意思や心がわからない <input type="checkbox"/> 組織や集団の制度や構造の上で、私が困ることが起きている
(3) いつから？	<input type="checkbox"/> ここ1ヶ月以内 <input type="checkbox"/> ここ半年以内 <input type="checkbox"/> ここ1年以内 <input type="checkbox"/> 入学以降 (年入学) <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 中学生以降 <input type="checkbox"/> ずっと <input type="checkbox"/> わからない <input type="checkbox"/> その他 ()	
(4) いつまでに解決したい？	<input type="checkbox"/> いま <input type="checkbox"/> できるだけ早く <input type="checkbox"/> 時には決めないが必要な時に <input type="checkbox"/> 一定の時間が経ってから (どんな時? →) <input type="checkbox"/> その他 ()	
(5) どこまで解決したい？	<input type="checkbox"/> 完全に問題を解決するまで <input type="checkbox"/> 問題を緩和するまで <input type="checkbox"/> 半分程度の解決でもよい <input type="checkbox"/> 多少なりとも解決できればよい <input type="checkbox"/> 解決に向かえば/問題軽減できればよい <input type="checkbox"/> 別別に解決されなくてもよい <input type="checkbox"/> 解決する要因は特になし <input type="checkbox"/> よくわからない <input type="checkbox"/> その他 ()	
(6) これが関係する人は？	<input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> クラスメイトや研究室メンバー <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 同僚 <input type="checkbox"/> 指導・担当する学生 <input type="checkbox"/> 特にない <input type="checkbox"/> 伝えたくない <input type="checkbox"/> その他 ()	
(7) 補足、メモ		

© University of Tsukuba All Rights Reserved.

「アライ」とは、英語で「同盟、支援」を意味するallyが語源です。私たちは、LGBT (レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー) だけでなく、いわゆるストレートを含む多様なセクシュアリティの存在を認識し、共にいること／在ることを表明する人を、当事者・非当事者を問わず指す言葉として使います。同時にアライは、私たち全てが一ひとオリジナルなセクシュアリティを有するかけがえのない存在であることを尊重します。


筑波大学
 University of Tsukuba

制作：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
 協力：NPO法人Ubdobe

全ての人を包み込む寛容な光を、
偏見が消える、その日まで

アライシンボルマークが持つ3つの要素



このマークには「太陽」、「波紋」、「紫陽花」の3つのシンボルが描かれています。それぞれに込められた意味を融合しアライシンボルマークが完成しました。

太陽 太陽は全ての生命と色の源であり、あらゆる人々を照らし、世界に彩りを与えます。このマークに描かれた太陽も全ての人々を平等に照らし、多様な輝きを生む光を放ちます。

波紋 水面に小石を投げると綺麗な波紋がゆるやかに広がり、消えていくように、小さな一歩でもセクシュアリティへの偏見を少しずつ消していき、いつしかマイノリティが特別な存在ではなくなるイメージを表現しています

紫陽花 白く潔白な美しさを持った白い紫陽花の花言葉は「寛容」を意味します。ありのままの多様なセクシュアリティについて、自分に対しても他者に対しても寛容であることを表します。



アライシンボル制作者について

このアライシンボルは、筑波大学と学生の協働によって、「アライ」に対する理解や普及を広げるために制作されました。

※アライシンボルをつけていることで、セクシュアル・マイノリティ当事者であるということを表示しているわけではありません。

work with Pride 「PRIDE指標 2022」 ※1

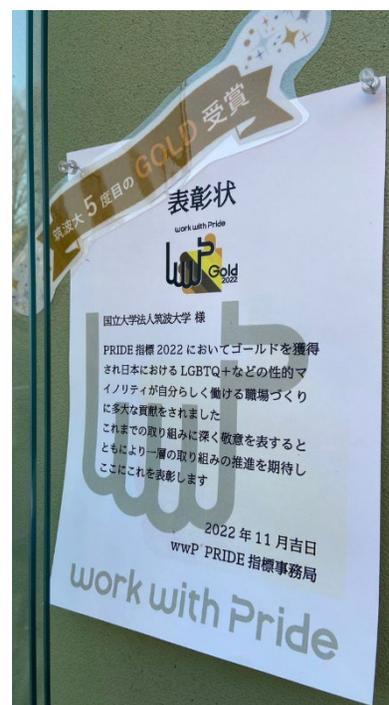
令和4年11月に開催された「work with Pride2022カンファレンス」にて、本学のLGBTQ+に関する取組が「PRIDE指標2022」において5度目となるゴールドを受賞することができました。本学での学生・教職員への継続的な取組が評価され、受賞へとつながりました。

※1 任意団体work with Prideにより策定された、2016年に日本初めてとなる、企業、団体等におけるLGBTQ+の性的マイノリティ（以下、LGBTQ+）に関する取組の評価指標です。LGBTQ+の人々が誇りを持って働ける職場の実現を目指して指標の名称を「PRIDE指標」とし、「企業・団体等の枠組みを超えてLGBTQ+が働きやすい職場づくりを日本で実現する」ために、以下の5つの領域において取組を評価するものです。

- ・ Policy（行動宣言）
- ・ Representation（当事者コミュニティ）
- ・ Inspiration（啓発活動）
- ・ Development（人事制度・プログラム）
- ・ Engagement/ Empowerment（社会貢献・渉外活動）

今後

本学は建学の理念である「開かれた大学」を掲げ、さまざまな属性を持った多様な人材の活躍こそがイノベーション創出の源泉であると強く認識しており、今後も引き続きLGBTQ+を含むダイバーシティ推進に取り組んでいきます。



11

国際女性デー

国際女性デーフェア 図書展示

2023年3月6日（月）～3月17日（金）まで、筑波大学中央図書館2階で、「国際女性デー」にちなんで、女性・ジェンダーに関する書籍展示を開催しました。

筑波大学の教員やジェンダー支援チームが推薦する書籍を、推薦理由とともに展示しました。

「ジェンダー・トラブル」、「女性の世界地図」、「82年生まれ、キム・ジヨン」、「女の子がいる場所は」など、書籍だけでなく映画や漫画も紹介されました。



国際女性デーFair

“女性”や“ジェンダー”に関する
推薦書籍を展示しています！

～人間系 金 瑛辰先生のおすすめ～
女性の世界地図 女たちの経験・現在地・これから

見えないジェンダーギャップの世界を地図を通して見える化しています。



～ジェンダー支援チーム 保井 啓恵先生のおすすめ～
ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱

ジェンダー研究やフェミニズムを知るうえで欠かせないのがこの一冊！ジュディス・バトラーの『ジェンダー・トラブル』です。この本が出版された1990年までは、「果たして女/男という本質的な差はあるのか」という、本質主義と構築主義の問いが盛んに議論されていました。バトラーはこの問いに対し、西洋哲学中の「言語」というものの構築性を援用し、構築主義の理論を打ち立てました。そしてそこで使われた「パフォーマンスィティ」は、今やこの分野には欠かせない概念として知られるようになりました。




2023/3/8（水）フェムテック×ウェルビーイング 「フェムテック協会理事山田奈央子さんに聞こう！話そう！」

3月8日の国際女性デーに合わせたイベントとして、一般社団法人日本フェムテック協会・代表理事の山田奈央子氏を講師にお迎えし、フェムテックに関する講演会を行いました。

オンライン・対面のハイブリッドにて実施し、オンライン27名・対面13名の延べ40名にご参加いただきました。

講演では、女性のライフステージにおける健康問題やフェムテックに関する基礎知識などをお話しいただき、参加者がフェムテックアンバサダー試験を受ける時間も設けられました。



フェムテラシーがあがると？

フェムテラシー
(=フェムテック+リテラシー)

があがると・・・女性にとっては

ワークライフ・バランス+
ホルモンマネジメントが実現

- ・自分らしいキャリアを形成できる
- ・理想のライフプランが実現できる

©JAPAN FEMTECH ASSOCIATION. All Rights Reserved.

フェムテックの領域

フェムテック Femtech

Female
(女性)

+

Technology
(技術)

月経

妊娠
不妊

産後
ケア

更年期

ポスト
更年期

セクシャル系
ウエルネス

婦人科系
疾患

※乳がん・卵巣がん・子宮がんなど
※生活習慣病・骨粗しょう症など

©JAPAN FEMTECH ASSOCIATION. All Rights Reserved.

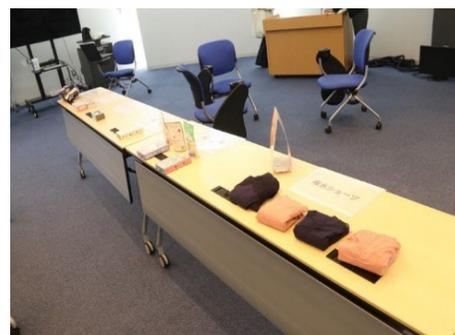
参加者からの声

- 今回のお話は是非男性にも聴いてもらいたいと思いました。
- 知らなかったこともたくさんあり、フェムテックに関心をもつきっかけになりました。
- 職場でこういった内容のイベントがオープンに開催されたことをとてもうれしく思いました。

2023/3/8（水）ゆるカフェ ～特別編～

「フェムテック協会理事山田奈央子さんに聞こう！話そう！」の後には、女性特有の不調や不安などを自由に話せる「ゆるカフェ」を実施し、11名が参加しました。

講演会に引き続き、講師の山田奈央子氏にご参加いただき、フェムテックについての情報の共有や、参加者からの質問にお答えいただきました。また、さまざまな最新のフェムテック製品を展示し、実際に手に取ることのできる貴重な機会となりました。



フェムテック × ウェルビーイング

フェムテック協会理事
山田 奈央子さんに
聞こう！話そう！

2023.3.8 WED

山田 奈央子さんをお迎えし、フェムテックや女性特有の健康課題についてお話を伺います。

ヘルスリテラシーを向上させてご自身の体と心に向き合うきっかけに、また相互理解を深め性別・年齢関係なく、全ての人が生きやすい社会の実現を一緒に考えてみませんか？

時間 12:00-13:00

対象 筑波大学所属の教職員・学生（性別問わず）

内容 フェムテックについて/女性特有の健康課題について

場所 3B棟210にて対面 ※コロナウェビナーによるオンライン配信のハイブリッド開催

参加費 無料

女子学生 20名限定

ゆるカフェ

女性特有の不調や不安など、相談しにくいお悩みを抱えている学生の皆さんも多いのではないのでしょうか。女性同士だからこそ話せるお悩みも、ぜひこの機会に相談してみませんか。皆さんの悩みが少しでも解消される機会になりますように。

時間 13:10-14:00

対象 筑波大学の女子学生、かつ講演会参加者

定員 先着20名（定員に達し次第、受付を終了いたします。）

場所 3B棟213

山田 奈央子先生には講演会・交流会ともにご参加頂きます！

講師 山田 奈央子氏

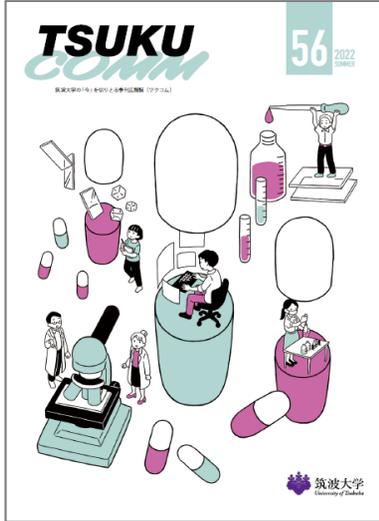
本学卒業生として多岐にわたる活動を行った後、非営利の女子専門フェムテックとして設立。女性の体と心への健康課題をテーマに、様々な健康課題を解決するためのフェムテックを開発・提供し、女性の健康課題の解決に貢献しています。また、女性の健康課題の解決に向けたフェムテックの普及を目的として、フェムテック協会理事として活動しています。

お申込み **お問合せ先** 筑波大学
ジェンダー支援チーム
TEL 029-853-8504 | diversity@uniba.ac.jp

告知チラシ

- フェムテック講演会
- ゆるカフェ

東京レインボープライド



東京レインボープライド2022において、初めて単独リアルブースを出展

4月22日～24日に、「東京レインボープライド (TRP) 2022」*が3年ぶりに代々木公園で開催され、本学は初めて単独でブースを出展しました。

本学の学生と教職員のボランティアスタッフ20人が企画したのは「#ITF 絵馬に願いを」です。絵馬やメッセージカードに「大学や社会へ期待すること・伝えたいこと」など、来場者が目撃している思いを書いてもらい、その場に掲示するもので、ブースだけではなく、Twitterでもメッセージを募集しました。

イベント期間中、300人以上の熱い思いが込められたメッセージで、ブースはいっぱいになりました。これらのメッセージに目を留める人々や、Twitterのフォローなどともつながる機会となりました。メッセージの中では、「誰もが自分ら

しく」「一人ひとりが尊重される社会」といった言葉が多かったことが印象的でした。これらのことが当たり前になる社会を目指して、本学としても「ダイバーシティ&インクルージョン」**について、今後さまざまな取り組みと発信を進めます。

なお、3日間の様子はTwitterのDACセンターTRP専用アカウント(@TRP2022_Tsukuba)でもご覧いただけます。

*TRPは、特定非営利活動法人 東京レインボープライドが主催する、LGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティの存在を社会に広め、「性」と「生」の多様性を祝福するイベントです。

**「ダイバーシティ&インクルージョン」は、性別、年齢、国籍などさまざまな属性を持つ人々を等しく認めて、それぞれの個性、能力に応じて適材適所で活躍できる場を与えよう、という考え方で、



DACセンター TRP専用アカウント



Pick up Topics

TSUKU COMM NO.56に

掲載されました。

つくば市みんなのつどい2022

令和4年12月4日（日）につくば市が主催した「つくばミンナのつどい2022～がんばりすぎる大人たちへ 男が働かない、いいじゃないか！ー男性学の視点からー」にて行われたパネル展示に、筑波大学も出展し、本学におけるダイバーシティ&インクルージョン推進の取組について発表を行いました。パネル展示では、つくば市で活躍されている女性活躍やダイバーシティ推進の活動をされている11団体が出展し、各団体の取組について紹介されました。

筑波大学のダイバーシティ&インクルージョン推進の主な取組として、「リケジョサイエンスフォーラム」、「ワークライフバランスの取組」、「東京レインボープライドへの出展」、「OUT IN JAPANの展示」の4つを紹介しました。筑波大学の取組をつくば市民の方々に知っていただく大変貴重な機会となりました。

筑波大学 ダイバーシティ&インクルージョン推進の主な取組

筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

筑波大学における、ダイバーシティ&インクルージョン推進の取組として、
リケジョサイエンスフォーラム **ワークライフバランス** **東京レインボープライド** **Out in Japan** の4つをご紹介します。

リケジョサイエンスフォーラム

つくば女性研究者支援協議会と筑波大学による取組

イベントの目的
 筑波大学や近隣の研究所、企業で働く女性研究者との交流や実験体験を通じて、
 ♫ 女子中高生に理系の魅力を伝え、理系への進路選択の悩みや不安を減らす
 ♫ 女子中高生が身近に「リケジョの未来」をイメージできることを目的とする

平成25年度より7年間継続的に実施

イベントの概要
 オンライン開催によるプログラム。
 ♫ 社会で活躍する女性研究者の、多彩な理系の魅力を直に伝える
 ♫ 学生スタッフとの「タテのつながり」を作り、身近なロールモデルを提示する

ロールモデル紹介
 企業・研究機関・大学で活躍する研究分野の異なる女性研究者3名による講演会。

ラウンドテーブルカフェ
 講師3名と大学院生と参加者がグループ単位で交流。

リケジョ研究室紹介
 大学院生5名による所属研究室の発表。研究室や一日の研究生活を紹介します。

参加者からの感想
 ・大学のイメージが刷新して、モチベーションアップに繋がった。
 ・自分の興味のある分野を実験していきたくて人が増えてきたように感じた。
 ・オンラインなので、遠方からも気軽に参加できた。

ワークライフバランス

教職員への、働きやすい環境作りやサポートへの取組

筑波大学はあらゆるライフイベントを応援します！
Work-Life Balance

様々なライフイベントと仕事の両立を支援するための制度を整備。どのような支援があるのか、分かりやすい早見表を配布。
 また、女性リーダー育成プログラム等、様々な取組を実施している。

東京レインボープライド

TRP2022で初の参加リアルブースを出展

筑波大学の教職員と学生によるボランティアスタッフの企画「#ITF 絵巻に願いを」では、大学や社会へ期待することや伝えたいことなどを、日常で抱えている想いを募集。300人以上の熱いメッセージが寄せられた。

Out in Japan

認定NPO法人 グッド・エイジング・エールズ 筑波大学 協賛する写真展

目には見えないLGBTの存在をポジティブに可視化するプロジェクト。多くの人の目に触れる展示会を通して、セクシュアル・マイノリティを含む多様な生き方について知り、関心を持ってもらうことを目的として開催。
 レスリー・キー氏が撮影した32点の写真と、レスリー本人のメッセージと共に展示。



育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業 管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業

筑波大学では、平成23年度より、出産・育児等で研究が中断しやすい女性研究者等の研究継続支援事業として「育児等との両立のための研究・事業補助者雇用経費助成制度」を開始し、平成30年度からは支援の範囲を広げ、「育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業」として実施しています。また、平成22年度より管理運営業務等に携わる男女格差の是正のため、「管理運営業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する補助者派遣事業」を開始し、平成24年度からは、対象者に外国人等を加え「管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度」を実施しています。

令和4年度は「育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業」31名の研究者へ、「管理運営業務等を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業」7名の研究者へ支援を実施いたしました。そのうち8名の方が、初めての申請・助成となりました。

本支援事業の採択者からは次のような声が寄せられました。

- 妊娠により研究へ取り組む体制が不安定となる中でも、このような支援事業に研究との両立をサポートしていただき、大変ありがたく思っております。
- 研究継続のためのモチベーションになりました。
- 年々、大学の予算が削られていくことを考えると、このような事業もなかなか継続していくのが難しくなっていくのではないかと思います。自分たちも、これから出産や育児をされる人達のためにも、継続的に研究費（研究支援）をいただけるような仕組みがあるとよいと思います。
- 大変感謝しております。自由度が高いため、他の予算の金額の3倍の価値があると考えています。

引き続き、ライフイベント期においても研究を継続できるよう、また管理運営業務を行う方々のダイバーシティを高めるべく、支援を継続してまいります。

育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業利用者

	研究員	助教	講師	准教授	教授
平成25年度	0%	44%	11%	44%	0%
平成26年度	10%	20%	10%	60%	0%
平成27年度	8%	31%	15%	46%	0%
平成28年度	9%	32%	32%	27%	0%
平成29年度	5%	52%	16%	25%	2%
平成30年度	9%	57%	9%	25%	0%
令和元年度	10%	64%	10%	15%	0%
令和2年度	10%	54%	15%	15%	5%
令和3年度	9%	55%	11%	18%	7%
令和4年度	0%	77%	10%	10%	3%

ベビーシッター割引券

筑波大学では、内閣府が実施する「ベビーシッター派遣事業」を活用し、教職員を対象にベビーシッター割引券を発行しています。この事業は、仕事と子育ての両立による負担の軽減に加え、児童の健全な育成に寄与することを目的として、ベビーシッター利用料金の一部が助成されます。今年度から割引券が電子化されたことを受け、利用者数、利用枚数どちらも過去最多となりました。

ベビーシッター割引券の利用者と利用枚数

	利用者数	利用枚数
平成22年度	7名	13枚
平成23年度	3名	6枚
平成24年度	6名	34枚
平成25年度	8名	147枚
平成26年度	8名	171枚
平成27年度	2名	18枚
平成28年度	12名	132枚
平成29年度	12名	315枚
平成30年度	17名	309枚
令和元年度	20名	573枚
令和2年度	16名	404枚
令和3年度	30名	1,447枚
令和4年度	32名	2,046枚



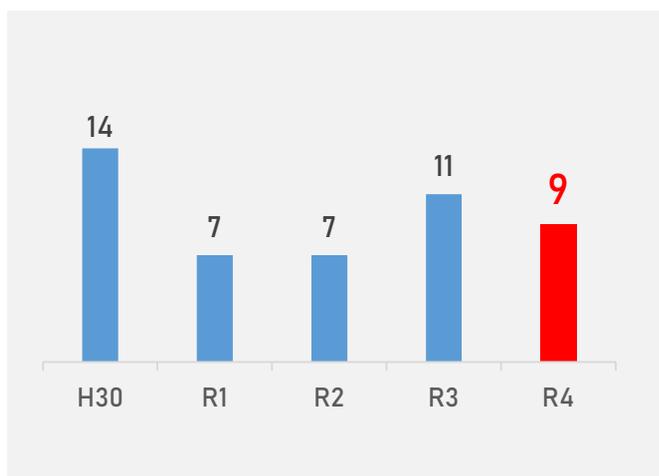
ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”とキャリア相談

相談内容の傾向

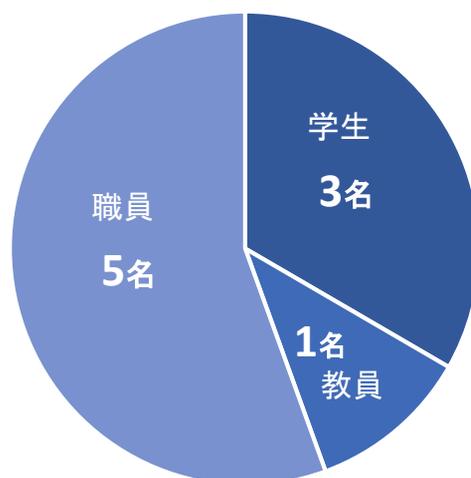
ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”は、教職員や学生、そのご家族のみなさんの仕事と生活のバランスを取るためのお手伝いをする相談窓口です。また、キャリア相談ではキャリアカウンセラーが仕事・研究を続けるなかで生じる悩みについて相談を受けています。

令和4年度は電話相談を含め9件の相談が寄せられました。テレワークと出勤の両立など、「新しい働き方」への移行にあたっての相談や、キャリア形成に関する相談が多かったように見受けられます。また、育児と研究の両立の為に利用できる制度や、どの部署に確認したら良いのかなどのお問合せが多く寄せられました。「相談までではないが、教えて欲しい」というニーズも多く、今後も一人でも多くの方が制度を利用できるよう寄り添って対応をしていくことが大切だと感じました。

過去5年間の相談件数の推移



R4年度の相談者の割合



LGBT相談室

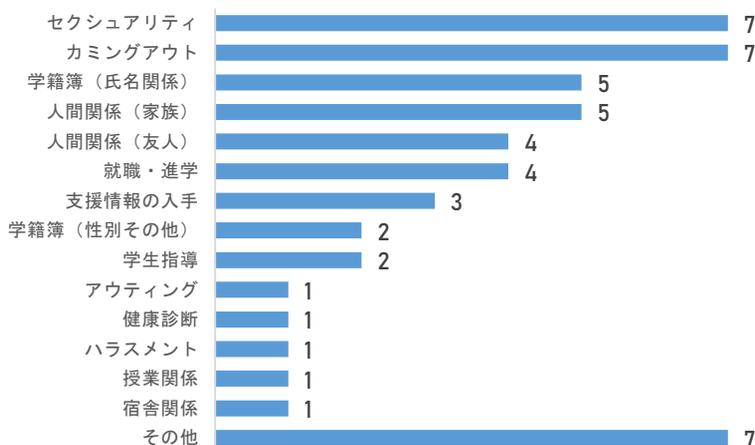
相談内容の傾向

令和4年度に受け付けた学生からの相談のうち、最も多かったのは大学院生からの相談でした。また、入学前の高校生からの問合せや本学への留学を控えた外国籍の学生からの相談もありました。くわえて、教員からの学生指導等に関する相談も複数寄せられました。

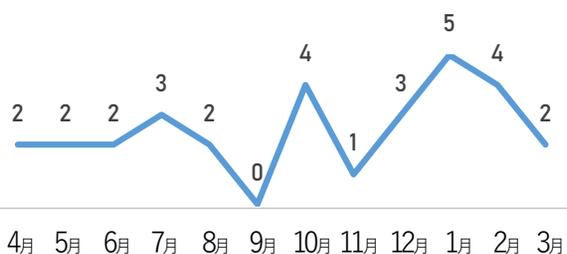
学生の内訳は学群生1名、大学院生4名、その他の学生（高校生含む）3名でした。そのうち、相談内容に関しては、セクシュアリティに関する相談及びカミングアウトにかかわる相談、学業や心理状態に関するその他の相談が多く寄せられました。次いで、学籍簿での氏名にかかわる問合せや家族や友人との人間関係に関する相談が寄せられました。

一昨年度は8名（延べ9件）、昨年度は5名（延べ5件）の相談件数でしたが、今年度はコロナ明けの影響もあり15名（延べ30件）となりました。学外からの問合せについては11件寄せられ、ほとんどが支援体制の構築に関する問合せや講演依頼でした。なお、今年度よりオンライン相談と対面での相談を併用する形にて面談を実施することにしました。

相談内容（複数回答）



相談件数（延べ）



学外の大学等からの問合せ件数

大学

9件

その他

2件

相談チラシ

ワーク・ライフ・バランス相談室のご案内



教職員のためのワークライフバランス相談

教育指導や仕事を優先して自分のことはつい後回しにしがら、日々の生活に忙しく自分のための時間が作れない。

そんな時に気持ちの切り替えの場として気軽にご利用ください。

学生のためのワークライフバランス相談

勉学と私生活の両立をうまく回りたい。

将来社会人として働くときに、仕事と生活の両立が実現できるように参考となる情報を提供します。

Consulting on Work-Life-Balance issue is available to faculty, staff and students. Confidentiality protected.

相談カード

ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”

予約方法 E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp
電話: 029-853-8503

相談場所 ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”
(場所はご予約時にお知らせいたします。)

Free to contact @ University of Tsukuba Office of Diversity
Work-Life-Balance Counseling Service "Au"
Email for an appointment: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

こんな時は、相談してみませんか。

職場や仕事上での問題

- 上司・部下・同僚との人間関係で悩んでいる
- 求められる仕事とやりたい仕事のギャップをどうしたらいいか
- 働き方を調整して私生活も充実させたい
- 仕事をやる意欲が低下している
- 職場でのストレスが大きい
- 会社が「育休」から復帰する部下をどう支援したらいいか

私生活での問題

- 家族の要望と仕事との兼ね合いが難しい
- 育児・介護の問題がある
- 子育てに不安がある
- 家庭内で心配な事があるけれど話せる人がいない
- 研究職を目指しているけれど、家庭も持ちたい・両立できるか不安

再就職準備

- これらのキャリアについて考えたい
- スキルの再認識やスキルアップについて具体的に考えてみたい
- 再就職の準備をしたい

申し込み方法

- お申し込みはメールか、または電話にて受け付けています E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp
電話: 029-853-8503
- 右記をお知らせください 名前、所属、連絡先(TEL/E-mail) 相談内容の概要、相談希望日時
- 場所 ワーク・ライフ・バランス相談室“あう” (場所はご予約時にお知らせいたします。)

WLB相談室“あう”では、カウンセリング利用の事業および相談内容に関して守秘義務を守り、利用者安心してご相談できる環境を提供します。

※下記カードを切り取って持参して下さい。

ワーク・ライフ・バランス相談室

WLB相談室“あう”では、学生・教職員が自分の希望するWLBが実現できるようにしています!

WLBの問題解決に向けて カウンセラーに話を聞いて欲しい

ワークライフバランスやキャリア支援についてもっと知りたい

大学で働く先輩研究者に話を聞いてみたい

心療カウンセラー 相談時間: 毎週木曜 13:15~17:15 (2024年度は9/19より10/24まで)

・ダイバーシティ部門スタッフ

・アカデミックメンター

詳しくは、ホームページを見てください。http://diversity.tsukuba.ac.jp/

セクシュアル・マイノリティ*に関する 筑波大学での学生生活について 相談できます

*セクシュアル・マイノリティとは、LGB(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル)や、T(トランスジェンダー)および性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

筑波大学では、平成27年度よりセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取り組みを始めました。

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。

- 氏名の取扱い
- 使用トイレ
- 教育実習やインターンシップ
- 名簿等における性別の取扱い
- 健康診断
- キャリア相談、就職相談 など

もし何か困ったことや伝えたいことがあれば、下記のダイバーシティ担当の窓口まで相談に来て下さい(電話かメールでの事前受付をしています)

対応可能な内容は個別の状況や大学側の事情にもよるため、必ずしも希望に沿えない場合もありますが、まずはお気軽にご相談下さい。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター **ダイバーシティ担当**

TEL: 029-853-8504 E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

URL: <https://diversity.tsukuba.ac.jp/> または「筑波大学ダイバーシティ」で検索

改訂版リーフレット

筑波大学 University of Tsukuba

筑波大学 ダイバーシティ推進室

キャリア相談

Career Counseling

ダイバーシティ推進室では、筑波大学で学び、働き、研究する方々のキャリアに関する相談をお受けしております



今後のキャリアの方向性について、一度きちんと考えてみたい

結婚や子育ても含めて、今後のキャリアプランを相談したい

仕事(研究)と家庭生活の両立について





結婚、子育て、上手にライフイベントをのりこえるには?

職場での働き方や仕事の進め方について相談したい

このような相談がございましたらキャリア相談をご利用ください

仕事・研究を続ける中で生じる様々な悩みについて、ご相談をお受けいたします。相談とまではいかなくても、ちょっと聞きたいことや聞いてもらいたいことなどでも、お気軽にご利用ください

Office of Diversity University of Tsukuba

キャリアカウンセリングの専門相談員がご相談をお受けいたします。





ネットワーク紹介

シリウス

筑波大学研究者ダイバーシティ推進活動支援コミュニティ

Sirius(シリウス)

Sirius について

筑波大学研究者ダイバーシティ推進活動支援コミュニティSirius(シリウス)は、筑波大学のダイバーシティ推進活動の風通しを良くしていくことを目的として発足したネットワークです。発足当初は女性研究者を対象としておりましたが、現在は男女や教員・職員にかかわらず、ダイバーシティ活動に協力いただける方々が約120名登録しております。

また下記にあるメンバーリストに登録すると、メンバーリストを通じ、ヒューマンエンパワーメント推進局(以下、BHE)からの情報を受け取るだけでなく、メンバーからの情報発信も可能となっております。

登録申請方法

申請方法は、簡単！diversity@un.tsukuba.ac.jpへ、①お名前②所属③登録メールアドレスをお送りください。(グループからの退会は各自いつでも可能です。)

登録いただくと、[sirius-diversity-tsukuba@googlegroups.com]より、登録完了のメールが届きます。

送られてくる情報(例)

- BHEで行っている支援事業等に関して
 - ・育児・介護等との両立のための研究補助・復帰支援事業(年2回)
 - ・管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業(年1回)
 - ・ベビーシッター割引券に関して(年度初め)
- 本学が主催するダイバーシティ関連シンポジウム、セミナー、カフェの情報
- 他機関で行われるダイバーシティ関連イベントの情報

など

問合せ

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局(ジェンダー支援チーム)

TEL: 029-853-8504 MAIL: diversity@un.tsukuba.ac.jp

ネットワーク紹介

つくば女性研究者支援協議会

つくば女性研究者支援協議会を「活用ください」

- 女性にもっともっと活躍して欲しい
- 女性研究者やリーダーを育てたい
- 女性研究者のワーク・ライフ・バランスをさらに支援したい
- 女性研究者のモチベーションを高めるノウハウが知りたい

くろみんマーク トモニンマーク

みなさまのご入会をお待ちしております。
入会は企業、団体、機関全体として入会いただくことも可能ですし、一部署、機関の一部（企業の中の研究所のみ等）でも可能です。

[入会のお申し込み先]
つくば女性研究者支援協議会
つくば市天王台1-1
筑波大学ダイバーシティ推進室内
Tel&Fax: 029-853-8504/8505

For Supporting Women Researchers

会員

連携機関

DSOでは、全国の研究教育機関が連携してダイバーシティ・男女共同参画を推進しています。

平成25年度文部科学省技術人材育成補助事業「女性研究者活動支援事業(拠点型)」

世界で活躍する女性研究者を
つくば地域から

For Supporting Women Researchers

つくば女性研究者支援協議会

活動内容

本協議会は、上記の目的を達成するために、下記に掲げる女性研究者の研究活動を支援するための事業を行っています。

- 参加機関の連絡提携、情報交換
- 女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
- 女性研究者のキャリア形成支援活動
- 各機関及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
- その他

主な活動実績

- 意識啓発シンポジウムの開催
平成26年2月19日、10月3日筑波大学において開催
- セミナー/勉強会の開催
女性のためのリーダー研修、外部資金獲得セミナー、アサーティブコミュニケーションセミナー等の開催
- ロールモデル集の作成
- 協議会の開催と情報交換
- ワークライフバランスガイドの作成

参加機関

筑波大学、アステラス製薬、日本IBM、エーザイ、筑波技術大学、筑波学院大学、茨城県立医療大学、生体分子計測研究所、小野薬品工業、アサヒビール ほか

連携機関

ダイバーシティ・サポート・オフィス (DSO)

会 則

(名称)
第1条 本会は、つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）と称する。

(目的)
第2条 本協議会は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の拠点を両立しながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的とする。

(用語の定義)
第3条 本会則において、「女性研究者」とは、学問分野を問わず、事物・機能・現象等について新しい知識を得るために、又は既存の知識の新しい活用の道を開くために、特定の研究テーマをもって創造的な努力及び探求を行う女性を指すものとする。

(事業)
第4条 本協議会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる女性研究者研究活動を支援するための事業（以下「本事業」という。）を行う。

- 機関等の連絡提携、情報交換
- 女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
- 女性研究者のキャリア形成支援活動
- 機関等及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
- その他本協議会の目的達成に必要な事業

(構成員)
第5条 本協議会の構成員は、第2条の目的に賛同して入会手続きを行い、入会の承認を受けた機関等（以下「会員」という。）とする。

(会員の入退会)
第6条 本協議会の入退会については、次の各号のとおりとする。
(1) 本協議会に入会を希望する機関等は、所定の様式により会長宛に届出し、承認を得るものとする。

(2) 本協議会を退会する際には、理由を付した退会書を会長宛に提出し、当該退会書を受領した上で、会長がこれを承認するものとする。

(会員の権利・義務)
第7条 会員は次の各号の権利及び義務を有する。
第10条 本協議会の会議は会長が招集し、毎年定期的に開催する。会議では、事業報告、事業計画、本会則の改正、本協議会の事業に関する提案・情報提供など、協議会の事業内容について審議し決定する。
第11条 本会則に定めるもののほか、協議会の運営及び運営経費について必要な事項は別に定める。

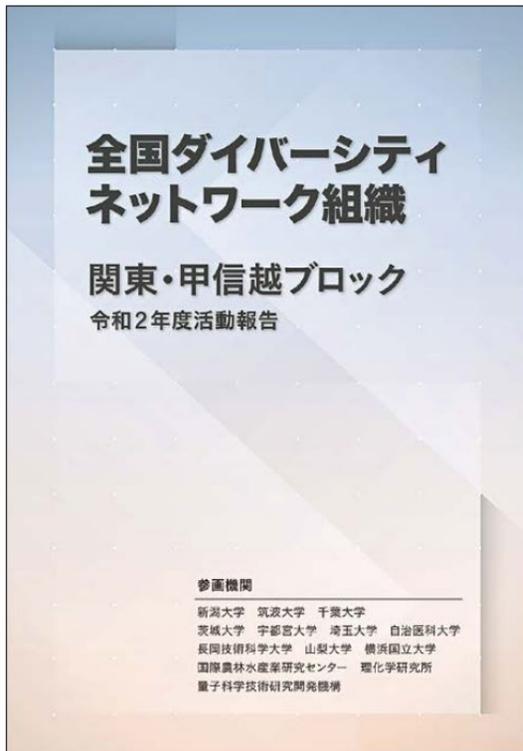
(会長)
第8条 本協議会の会長は、原則として筑波大学ダイバーシティ担当副学長がその任に就く。

(事務局)
第9条 本協議会の事務局は、筑波大学ダイバーシティ推進室内に置く。
2 事務局は、本協議会の運営実務を行う。

(その他)
第10条 本協議会の会議は会長が招集し、毎年定期的に開催する。会議では、事業報告、事業計画、本会則の改正、本協議会の事業に関する提案・情報提供など、協議会の事業内容について審議し決定する。
第11条 本会則に定めるもののほか、協議会の運営及び運営経費について必要な事項は別に定める。

附則
本会則は、平成26年12月12日から施行する。

全国ダイバーシティネットワーク



※令和2年度作成 関東・甲信越ブロック活動報告書

全国ダイバーシティネットワーク（OPENeD）は、男女共同参画社会や多様な個性・能力が尊重されるインクルーシブな社会の実現のために、大学や研究機関、企業等における女性研究者の育成や研究環境・研究力向上を目指す諸機関をつなぎ、国内外の取組動向や参考事例（グッドプラクティス）を収集・公開し、全国的な普及・展開を図っています。OPENeDは、国立大学法人大阪大学を幹事機関として、国立大学法人東京農工大学及び協働機関である日本アイ・ビー・エム株式会社を中心となり、文部科学省と連携して活動しています。

また、全国8つの地域ブロックに分かれて活動をしており、筑波大学は、関東・甲信越ブロック（東京地区を除く）に属しています。新潟大学と千葉大学と共に、とりまとめ幹事大学の1つとして活動をしております。

大学や研究機関等、業種や規模に問わず多くの関東・甲信越の機関がこの全国ネットワークを介して、女性研究者を取り巻く研究環境の整備や、研究力向上に向けた取組等の情報にアクセス、発信できることを目指しております。

そして、女性研究者支援に限らず、多様な属性を有する誰もが個性と能力を発揮できる研究環境の実現に向けて、広くダイバーシティ推進に資する情報交換を共有できるよう、ブロック会議やセミナーを行っております。今後も、幅広い分野の機関に参画していただけるよう、引き続き活動していきます。

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」

する学生及び教職員への包括的な支援を目的とした「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」に引き継がれ、さらなる女性の活躍を後押しするべく、現在も取組を加速させています。

■ 本学の施策に関する詳細

- ・ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター [ダイバーシティ部門 HP](#)
- ・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

※筑波大学は、平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、一層の女性活躍推進に取り組んでいきます。

■ 本件問い合わせ先

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター [ダイバーシティ部門](#)
TEL: 029-853-8504 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp

平成 29 年 3 月 1 日

筑波大学ニュース&トピックス

永田恭介学長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました

国立大学法人筑波大学学長の永田恭介は、内閣府が支援する

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しましたので、お知らせいたします。

本学学長の永田恭介は、この「行動宣言」に賛同し、筑波大学の学生及び教職員を含めた全ての女性の活躍のさらなる推進を通じて、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指す教育研究を充実・強化していくことを、改めて表明します。

■ 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について

平成 26 年 3 月 28 日に首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、輝く女性・輝くこうとする女性たちを応援する各界のリーダーたちによるムーブメントが広がっています。

このような中、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業の男性リーダーによる「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が取りまとめられました。

※「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言ホームページ
http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders.html

■ 国立大学法人筑波大学の女性活躍推進施策について

筑波大学では、平成 9 年に女性研究者の有志による「筑波大学女性教職懇話会（仮称）」が発足し、学内保育所や男女共同参画推進室の設置、育児・介護支援、各種相談体制の確立等を進めるとともに、平成 20 年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」、平成 24 年には「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定する等、これまで一貫して女性活躍のための環境整備、意識啓発等の支援に取り組んできました。平成 28 年、これらの取組は多様化

SOGIハラ啓発ポスター



ひとりひとりの ソジ “SOGI”を大切に

〔SOGI〕とは、性的指向 (Sexual Orientation :

どんな性を好きになるか/ならないか等) と

性自認 (Gender Identity :

どんな性と自分で思うか/思わないか等) の略称です。

〔ソジ〕または〔ソギ〕と読むのが一般的です。

これまで性的マイノリティーを表す〔LGBT〕という

呼称が広く認知されていますが、

SOGIはLGBTも含めた全ての人の

性的指向と性自認の属性を表しています。

筑波大学は、SOGIハラを許しません

性的指向・性自認に関する侮蔑的・中傷的な言動を行うことやアウトティング (他人の秘密を暴露すること) によって、

当事者が不快な思いをしたり不利益を被ったりすることはハラスメントであり、〔SOGIハラ〕と呼ばれ、人権侵害にあたります。

2019年に成立した〔バウハラ防止法〕でも、SOGIハラ防止が義務付けられています。





オフィシャルHP

<https://diversity.tsukuba.ac.jp/>



X (twitter)

@UTsukuba_gst